

第2学年 外国語活動学習指導略案

2組 計23人(男子11人, 女子12人)

指導者 T1(HRT) 若松 千夏

T2(ALT) Keegan Burgess

1 単元 色を英語で言ってみよう～「カラフルぶんぶんごま」を作ろう～

2 単元の目標

- 日本語と英語の音声の違いに気付きながら、色を表す英語に慣れ親しんでいる。【知識及び技能】
- 自分の考えや気持ちに合った言葉を選んで、ALTに伝えようとする。【思考力、判断力、表現力等】
- ALTと仲良くなるために、色を表す英語を進んで発音しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 単元でめざす子供の姿

主体性	初めて出会うALTに、自分の「カラフルぶんぶんごま」を紹介するために、色を英語で言えるようになりたいという思いが高まっている。
協働性	自分の作った「カラフルぶんぶんごま」に入っている色がALTに伝わるか、友達と協力しながら伝え方を考えようとしている。
創造性	目的や場面、状況等に応じて自分の考えや気持ちに合った言葉を選び、ALTに工夫して伝えようとしている。

4 単元の位置とねらい

これまでに子供たちは、1学期で帰国するALTに鹿児島の名物かき氷「白くま」を作ってプレゼントするために、「白くま」にトッピングしたい果物を自分で決め英語で紹介する学習をしてきた。その際、買い物ごっこを通して、果物の英語での言い方に慣れ親しむとともに、自分の考えや気持ちに合った言葉を選んで伝えることの楽しさを味わうことができた。

そこで本単元では、初めて出会うALTと仲良くなるために、ALTが興味を示すであろう「カラフルぶんぶんごま」を作って紹介するという単元のゴールを設定し、「色を英語で言えるようになりたい。」という思いを高めることができるようにする。また、子供たちにとって身近で親しみやすい色を扱うことで、「オレンジ」と“orange”のように、日本語と英語の音声の違いに気付くことができるようにする。そして、「カラフルぶんぶんごま」を作る過程で色を表す英語を進んで発音し、友達やALTと楽しく関わり合う中で、自分の考えや気持ちに合った言葉を選び、伝えようとしたりすることができるようにする。

この学習は、第3学年外国語活動 Let's try! 1 Unit 4「好きなものを伝えよう」で、“I like ~?”や“Do you like ~?”という表現を用いて、自分の好きな物を伝えたり、友達にインタビューをしたりする活動へと発展していく。

5 指導計画(全3時間+学級活動1時間)

過程	学習課題	課題解決に迫る主な学習活動
意欲をもつ (1)	どうすればキーガン先生と仲よくなれるかな。(本時)	ALTと仲よくなるためには、どのような学習をすればよいか計画を立てる。
慣れ親しむ (1)	いろいろな色を英語で言ってみよう。	チャンツやゲームを通して、日本語と英語の音声の違いに気付きながら色を英語で言う。
広げる・深める (1)	「カラフルぶんぶんごま」の紹介をしよう。	自分の「カラフルぶんぶんごま」を作り、紹介の練習をする。
新たな学び (学級活動)(1)	キーガン先生と仲良くなろう。	ALTに自分の「カラフルぶんぶんごま」を紹介し、仲よくなる。

6 本時

(1) 目標(1/3)

「カラフルぶんぶんごま」を作り、ALTに紹介するという単元のゴールをイメージし、色を英語で言えるようになりたいという気持ちを高める。

(2) 指導に当たって

ア 主体的な学びを実現する教師の手立て

「カラフルぶんぶんごま」を作り、ALTに紹介するという単元のゴールを設定することで、「色を英語で言えるようになりたい。」「いろいろな色を使った『カラフルぶんぶんごま』を作りたい。」などという思いをもたせるようにする。

イ 対話的な学びを実現する教師の手立て

日本のおもちゃと外国のおもちゃを比較させながらみんなで考えを共有することで、その共通点や相違点に気付くことができるようにする。

ウ 深い学びを実現する教師の手立て

ALTの発音と子供の発音を比較させることで、音声の違いに気付かせ、もっと上手に言えるようになれば、自分の「カラフルぶんぶんごま」を紹介できそうだという単元の見通しをもてるようにする。

(3) 展開 □ 教師の言葉掛け() 子供の反応 () 重要評価項目

過程	主な学習活動と予想される子供の反応	教師の指導	
意欲をもつ (10)	<p>1 ALTの自己紹介を聞く。</p> <p>T 1 : キーガン先生は、何が好きと書いていましたか。</p> <p>いろいろな国のおもちゃが好きって書いていたよ。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>どうすればキーガン先生と仲良くなれるかな。</p> <p>3 日本と外国のおもちゃを比べる。</p> <p>(1) 外国のおもちゃを知る。</p> <p>(2) 日本のおもちゃを紹介する。</p> <p>T 1 : キーガン先生に、日本のおもちゃを教えてください。</p> <p>けん玉、こま、お手玉、竹とんぼ、ぶんぶんごまがあるよ。</p> <p>(3) 日本と外国のおもちゃの共通点や相違点を見つける。</p> <p>4 ALTの興味のあるおもちゃを知る。</p> <p>T 2 : <i>Bun-bun-goma</i> is great. But it's white.</p> <p>色を付けるともっときれいだよ。</p> <p>T 1 : Mr. Keegan, what color do you like?</p> <p>T 2 : I like red, green, yellow and blue.</p> <p>T 1 : キーガン先生の好きな色が分かりましたか。</p> <p>赤, 緑, 黄, 青と書いていたと思うな。</p> <p>T 1 : キーガン先生の好きな色を付けてみましょう。</p> <p>T 2 : It's beautiful. Please show me more colorful <i>Bun-bun-goma</i>.</p> <p>みんなでカラフルなぶんぶんごまを作って、キーガン先生に紹介したらいいのではないかな。</p> <p>5 単元の計画を立てる。</p> <p>(1) キーガン先生と仲良くなる方法を考える。</p> <p>(2) 色を英語で言えるようになる。</p> <p>(3) 「カラフルぶんぶんごま」の紹介の練習をする。</p> <p>(4) 「カラフルぶんぶんごま」の紹介をする。</p> <p>6 色を表す英語を知る。</p> <p>red, white, black, pink, blue, yellow, green, purple, gray, orange, silver</p> <p>7 本時の学習について振り返り、次時の活動に意欲をもつ。</p> <p>キーガン先生に「カラフルぶんぶんごま」を紹介するために、これからもっとたくさんの色を英語で言えるようになりたいです。</p>	T 1 (HRT) の役割	T 2 (ALT) の役割
楽しむ (30)	(内容同上)	<p>○ 自己紹介をすぐに日本語に訳さずに、キーワードの繰り返しや、ジェスチャー等で、何とかで分かるようとする意欲をもつようにする。【主】</p> <p>○ 既得の知識やジェスチャーを使って ALT に日本のおもちゃを紹介することで、自分なりの表現で伝える楽しさを感じるようにする。【主】</p> <p>◆ 既得の知識やジェスチャーを使いながら、主体的に ALT とコミュニケーションを図ろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度: 表情, 発言】</p> <p>○ 日本と外国のおもちゃを比較し、気付いたことを伝え合うことで、その共通点や相違点に気付くようにする。【対】</p> <p>○ 白いぶんぶんごまを示すことで、「色をつけたい。」という思いをもたせるようにする。また、ALT に「カラフルぶんぶんごま」を紹介するために、「色を英語で言えるようになりたい。」という学びの必然性をもつことができるようにする。【主】</p> <p>○ 「カラフルぶんぶんごま」を紹介するという単元のゴールを示すことで、どのような学習活動をしていけばよいかを考えるようにする。【主】</p> <p>◆ ALT の発音を聞いて、色を表す英語の音声やリズムに慣れ親しもうとしている。 【知識及び技能: 表情, 発言】</p> <p>○ ALT の発音と子供の発音を比較させることで、音声の違いに気付かせ、もっと上手に言えるようになれば、自分の「カラフルぶんぶんごま」を紹介できそうだという単元の見通しをもてるようにする。【深】</p>	<p>○ 英語で自己紹介をすることで、英語の音声に慣れ親しむ、興味を高めることができるようにする。【主】</p> <p>○ “What’s this?” “How do you play?” 等の表現を繰り返し使い慣れ親しませることで、どんな場面で使う表現か分かることができるようにする。【深】</p> <p>○ 発音をよく聞かせることで、日本語と英語の音声の違いにより体験的に気付くことができるようにする。【主】</p>
振り返る (5)	(内容同上)	(内容同上)	(内容同上)

